



自己評価の基準【A】十分達成できた【B】概ね達成できた【C】あまり達成できなかった

目指す学校像とその数値目標		
都立の中堅校として、学習指導、生活指導、進路指導等を通して、生徒の資質・能力を伸ばし、自立した社会人として必要な学力を確実に身に付けさせる学校を目指す。具体的には、本校での三年間の学習により、いわゆる「日東駒専」以上の大学に合格が可能な学力を保证する。そのために、「学力向上と進路実現」、「活力ある学校生活」、「地域等との連携と情報発信」の三本の柱を中心とした学校づくりを行う。 数値目標Ⅰ：3学年最終の模擬試験の平均点偏差値を、各科目で50以上とする。 数値目標Ⅱ：大学入試センター試験の平均点偏差値を、各科目で50以上とする。 数値目標Ⅲ：「日東駒専」以上の大学の現役合格者数を、のべで140名以上とする。		
中期的目標		
《学力向上と進路実現》 ①難関大学への進学に必要な学力の向上を図る。 ②進路に関する高い目標の設定とその実現を目指す。 《活力ある学校生活》 ③部活動や学校行事等の充実に向けた取組を継続する。 ④基本的生活習慣を確立させる指導を継続する。 《地域等との連携と情報発信》 ⑤地域等との連携により、伝統文化を尊重し、異文化を理解する態度を育成する。 ⑥地域等への情報発信や、生徒募集に関する広報活動を充実させる。 《経営支援・その他》 ⑦経営企画室と各分掌や教科等との連携より、教育活動を円滑に実施する。 ⑧ライフ・ワーク・バランスを実践する。		
今年度の重点目標	今年度の取組目標	今年度の取組と自己評価・次年度以降の課題と対応策 (取組目標に関連する数値目標・教育活動への取組・重点目標への取組と自己評価)
①指導内容や方法の改善により授業力を高め、生徒の学力の向上を図る。 【具体的な方策】 ◆「学力スタンダード」を活用した、指導と評価の改善。 ◆自習室やコーチングスタッフの活用。 ◆予備校講師による講習を含めた講習の充実。 ◆学校図書館と教科が連携した読書指導の推進。	1 生徒が主体的に学習に取り組む態度を育てることで、家庭学習の定着を図る。	1 平均家庭学習時間の増加。 (1・2年生で1時間以上、3年生で3時間以上) →【C】「学習時間調査」等の結果によると、3年生の平均家庭学習時間は、概ね3時間を超えたが、1・2年生の平均家庭学習時間は1時間未満であり、目標の数値を下回った。来年度は、保護者と連携し、生徒が主体的に学習に取り組む態度の育成を目標とする。

②大学受験は一般受験を前提として指導を行い、模擬試験等のデータを有効に活用する。 【具体的な方策】 ◆「進路の手引き」の活用。 ◆勉強合宿の実施。 ◆進路ガイダンス、進路講演会などの計画的な実施。	2 予備校との連携も含め、講習（補習）の講座数を増加する。 3 読書活動を通して、広く深い知識の獲得を目指す。 4 三年間を見通した系統的な計画に基づく指導を継続する。 5 高い進路目標を設定させ、目標に向かった学習を計画的に行わせる。	2 講習（補習）受講者数の増加。 （のべ650人以上） →【B】放課後や長期休業中などの講習や補修の受講者数は、勉強合宿を含め、年間を通して延べで約600人と目標の数値をやや下回った。来年度は、予備校による講習の在り方を改善するなど、講習受講者数の増加を目指す。 3 生徒の不読率の減少。 （22%以下） →【A】2年生を対象に校内で実施した「読書に関する調査」の結果によると、一か月に一冊も本を読まない、いわゆる不読者数の割合は18%と、目標の数値を大きく上回った。来年度も、学校図書館の利用推進の取組や、教科とも連携した指導の継続により、東京都が定めた不読率の目標である22%を下回るよう、努力を重ねる。 4 センター試験の受験者数の定着。 （受験率85%以上） →【B】3年生の大学入試センター試験の受験者数の割合は、今年度は77%となり、目標の数値をやや下回った。来年度も、「進路の手引き」を活用した進路指導を維持し、センター試験の受験を推奨する。 5 GMARCH以上の大学への現役合格者数の定着。 （のべ40人以上） →【B】今年度の3年生の、いわゆるGMARCH、早慶上理、国公立大学の合格者数は、延べで36人と、目標の数値をやや下回った。来年度も、生徒に早期に進路の目標を設定させ、その目標に向かった学習を計画
--	--	---

◆専門医の講話等による、健康管理に対する意識付け。 ◆学校保健委員会の活用による保健指導の充実。 ◆清掃や美化指導の徹底。	10「学校健康推進計画」に基づく学校保健の充実により、健康や体力の向上を目指す。 11組織的な清掃や美化活動に、継続して取り組む。	も、あらゆる機会を利用し、生徒の規範意識を育て、いじめに類似する行為の防止についての指導も徹底するなど、いじめゼロを継続する。 10 基礎体力の向上。 （体力テストの結果の都平均以上） →【A】平成29年度の東京都児童生徒体力運動能力生活運動習慣等調査結果の体力合計平均値によると、全国平均を約3ポイント下回ったが、東京都の平均は約1ポイント上回り、目標の数値を上回った。来年度も、一校一取組運動を活用するなど生徒の体力向上の取組を継続する。 11 校内美化に関する学校評価等での肯定的回答の増加。 （80%以上） →【C】「学校評価アンケート」での校内美化に関する質問で、肯定的な回答を行った生徒の割合は63%と、目標の数値を下回った。来年度も、生活指導部を中心に、組織的な清掃や美化活動に、継続して取り組む。
⑤全ての教育活動を通して、伝統文化尊重と国際理解に関する教育を推進する。 【具体的な方策】 ◆地域や外部関係機関とも連携した、オリンピック・パラリンピック教育の推進。 ◆外国大使館等との交流。	12 自国や外国の伝統や文化を尊重する態度を育てる。 13オリンピック・パラリンピック教育を推進する。	12 伝統文化に関する行事の実施及び参加。 （1回以上） →【C】今年度については、東京都の事業を含めた、伝統文化に関する行事を実施することはできず、目標を達成できなかった。来年度は、都の事業である伝統芸能鑑賞教室を活用し、当該の行事を実施する。 13 オリンピック・パラリンピック教育に関する行事の実施及び参加。

⑥教育活動を中心に、地域や中学生とその保護者を対象とした広報活動を、積極的に実施する。 【具体的な方策】 ◆各種説明会や学習塾訪問等による募集活動。 ◆ホームページ等による情報発信。 ◆体験授業、体験部活動、出前授業等の実施。 ◆教育活動を通じた地域への貢献。	14 教育活動の情報を積極的に発信し、生徒募集に努める。 15 学校説明会等を複数回実施するとともに、外部での説明会等にも積極的に参加をする。 16 学校案内を都内の中学校に配布するとともに、重点地区を中心とした学習塾訪問を継続する。	(1回以上) →【A】オリンピック・パラリンピック教育の一環として、在日ジャマイカ大使を講師とした講演会を、広尾中学校とも連携して実施し、目標を達成した。来年度も、国際理解教育やオリンピック・パラリンピック教育を推進する同様の事業を実施する。 14 ホームページ等の随時の更新。 (年間更新回数150回以上) →【A】ホームページとSNSの更新回数は、年間を通して229回となり、目標の数値は上回った。来年度は、学校広報を担当する部署を新設するとともに、ホームページの作成を外部に委託するなど、情報発信の充実を図る。 15 学校説明会等への参加者数の定着。 (5000人以上) →【B】学校見学会、校内と校外で実施した学校説明会(合同説明会を含む)の参加者数は、年間を通して約4500人となり、目標の数値を下回った。来年度は、学校案内と学校紹介動画等をリニューアルし、学校説明会等の参加者数の定着を図る。 16 推薦選抜と学力選抜の倍率の定着。 (4倍と2.3倍以上) →【A】入学者選抜の倍率は、推薦に伴う選抜では4.8倍、学力検査に基づく選抜では2.5倍と、目標の数値を上回った。来年度は、入学者選抜における倍率の維持とともに、本校の求める生徒像に合致した生徒募集
---	--	--

⑦計画的かつ効率的な予算配分と執行を継続して実施する。 【具体的な方策】 ◆関係部署どうしの連携の強化。	17 経営企画室と管理職等とが連携し、計画的な予算編成を行う。 18経営企画室と教職員が連携し、適正な予算執行を行う。	に重点的に取り組む。 17 次年度の予算編成指針の適正な時期の策定。 (11月まで) →【A】平成30年度の予算編成指針を10月に策定し、目標を達成した。来年度も、適正な策定を継続する。 18 自律経営推進予算の計画的な執行。(第2四半期終了までに70%の執行) →【B】自立経営推進の執行状況は、10月末までに61%の執行率であり、目標の数値をやや下回った。来年度以降も、計画的な予算執行に努める。
⑧学校における働き方改革に向けた取組を行う。 【具体的な方策】 ◆部活動指導の在り方の検討。	19業務の縮減と効率化を心がけ、実働勤務時間の削減を目指す。	19 各種委員会等の業務の見直し。(各種委員会等の10%削減) →【A】各種委員会等の業務の見直しにより、平成30年度に向けて約25%の委員会の統廃合を行い、目標の数値を大きく上回った。来年度以降も、学校における働き方改革に向けた取組を継続し、実働勤務時間の削減を目指す。